町家ペンキ塗り替えボランティア活動　2003年　in HAKODATE

before

after

■ 2003年8月9日（土）、8月10日（日）■

←左

（23）及能邸所有建物：建設年不詳、元町24-17
【塗り替えの配色】外壁下見板・柱・屋根・小庇：黒色、正面外壁上部塗壁：白色の2色。

右→

（24）平沢家所有建物：1937(昭和12)年、元町24-18
【塗り替えの配色】外壁下見板：肌色、窓枠・柱：茶色、小庇：黒色の3色。

●塗り替え対象物件の選定理由：及能邸所有建物は、札幌の若手アーティスト・グループ「ロッパコ」が過去2度、ここを会場に展覧会（ロッパコ展、民宿美術）をおこなうなど、空家活用の先駆事例であった。またこの年は、函館からトラストより助成を受けた西部町並み調査隊が「函館市西部地区町並み住環境調査」の一環として、まちづくりワークショップの会場などの町家交流サロンとして活用することが計画されており、空家再生活動との連携を図ることにより相乗効果が期待できると考えた。平沢家所有建物は、及能邸所有建物に隣接しており、連続する建物群のペンキ塗り替えは単体よりも町並み改善効果が大きいと考えた。

●塗り替える色の方針：①西部地区の町並み景観との調和、建物の周囲の環境や建物自体の建築様式との調和、②外壁と窓枠・柱等を異なる色で塗り分け、建物にメリハリをつけること、を考慮した。及能邸所有建物は和風様式であり西部地区の重要伝統的建造物群保存地区内にある、同じ和風様式の伊賀家住宅（元町32-10）をモデルとして外壁下見板・屋根等を黒色、正面外壁上部塗壁を白色の2色とした。平沢家所有建物は隣接する及能とのコントラストを強調することで互いの色の特性を高めること（対比効果）を考え、また今回は従来にない新しい色の創造をめざして、外壁をサーモンピンクのような肌色、窓枠・柱を茶色、小庇を及能の外壁色である黒色の3色とした。特に及能については、平屋建てであるために、錆びたトタン板の屋根面が目立っていたが、ペンキ塗りの結果一新され、効果が大きかった。なお、ペンキはすべてツヤ消しを使用した。

●他の市民まちづくり活動とのコラボレーション：①小学生13名を対象に西部地区の「まちを理解する」ワークショップの最後をかざり、小学生たちにペンキ塗りに参加してもらった、②空家であった及能の外観とともに内部もペンキ塗りをおこない、その後、20代の若手アーティストたちによる作品制作と展覧会の会場として、さらには西部地区の町並み・住環境の再生をめざすまちづくりワークショップの会場として利用された。

【参加者】ペンキ塗りボランティア部代表・水上豊大、新　文浩、吉村有人、（以上、北海道大学大学院工学研究科住環境計画学分野・修士課程1年）、倉井智宏（同・研究生）、櫻田和子（同・修士課程2年）、小田加裕、熊川木純子（以上、同・4年）、桑下　唐（同・助手）、岡本浩一（桐ホルス）、大槻友孟、金子　豊、工藤雅人、滝沢慎軍、中井裕希、長瀬詩織、藤本　歩、山崎拓郎（以上、北海道教育大学函館校・社会文化情報コース1年）、原田麻美、福井衣里、木宿まなみ、三島優香、門間沙祐（以上、函館工業高校・建築科2年）、飯田勝也、菅藤　歩（以上、函館工業高校）、浅野良介、大窪祐貴、川内谷直洋、原田雄一（以上、函館高専・学生）、原峰安男、芦谷泰子（以上一般参加）、中村幸子（小倉工務店）、野上裕之（ロッパコ）、宮崎宏美（And so on 企画総責任者、ロッパコ）、梅村絢矢（北海道大学大学院工学研究科都市空間計画学研究室・修士課程1年）、西館沙織（同・修士課程2年）、倉知　敏（同・博士課程1年）、山岸加奈（同・博士課程2年）、佐々木立（And so on 現場責任者、慶応大学・学生）、宮田彩子（早稲田大学大学院政治学研究科・修士2年）、市内の小学生12名、**以上51名**

【協力者】平沢家所有建物の居住者（飲み物、チョコレートの差し入れ）、不明（ウィンナーソーセージの差し入れ）、函館工業高校建築科教諭・吉村富士夫（函館工業高校生のボランティア手配）、函館高専教授・益澤憲吉（函館高専学生のボランティア手配、女子学生の宿泊受け入れ）、柳小倉工務店（外部足場の手配、内部のライト及び足場の手配）、日本ペイント販売北海道支店・米沢猛夫（ペンキ塗料の手配）、函館からトラスト事務局・陳有崎・河内昌子（足場の交渉、ハケ等ペンキ用具の保管、男子学生宿泊先の手配）、元町倶楽部・太田誠一（対象建物所有者の承諾、色の相談・決定）、函館からトラスト事務局・柳田良造（対象建物及びその配色への助言）、元町倶楽部・山本真也（小学生の引率）

他以上敬称略

before

after